

【基盤研究(S)】

人文社会系 (人文学)



研究課題名 仏教用語の現代基準訳語集および定義的用例集 (パウダコーシャ) の構築

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

さいとう あきら
齊藤 明

研究分野：印度哲学・仏教学

キーワード：印度哲学・思想、仏教学・仏教史全般

【研究の背景・目的】

本研究は**主要な用例**にもとづいて、基礎的な仏教用語の意味を再考し、**信頼度の高い現代語訳**を提示することをめざしています。これは仏典に登場する主要な術語のもつ意味を、それぞれの原典に立ち返って再検証し、今の時代にふさわしい現代語訳（日本語と英語）を提起しようというプロジェクトです。

伝統的な漢訳語には「空」や「意識」などのように、きわめて的を射た、日本語としてもかなり定着している術語も少なくありません。しかしながら、一方でまた「集(ジュウ)」「色」「捨」や「世俗」や「戯論(カウ)」などの訳語のように、すでに原意の理解がかなり難しくなっている術語が多いのも事実です。

このような事態の克服をめざして、本プロジェクトは、学界の衆知を集めながら、**仏教の思想的な理解をより正確で、信頼度の高いもの**にしたいという発想から生まれました。

【研究の方法】

本研究では、各分野を代表する研究教育者が研究分担者あるいは連携研究者として参画し、それぞれの分担テーマに応じて研究班を組織して研究を進めます。

平成 23 年度から 5 年間の研究期間の中で、海外共同研究者および大学院生の協力を得ながら、研究班ごとに毎週あるいは隔週単位で研究会を重ね、年に 1 冊程度のサイクルで研究成果を公表します。

年に 3 回の全体研究会で意見交換と調整を行い、関連する学会発表とワークショップを経たのちに、それぞれの研究成果を冊子体と電子媒体で公開する予定です。

研究代表者はすでに、「五位七十五法」と呼ばれる、インドの有力な仏教部派であった説一切有部による法（物質的・精神的要素）の体系に関する研究をすすめ、その成果を **XML (拡張可能なマーク付け言語)** を用いてとりまとめ、冊子体と電子媒体とで公にしました。

本プロジェクトでは、上記の研究を通して確立した方法を、分野ごとの特性と問題点を考慮に入れながら、**初期仏教、瑜伽行唯識思想、中観思想、仏教論理学・認識論、インド密教、およびチベット仏教**に関する総計およそ 500 を数える主要な術語に適用します。

【期待される成果と意義】

本研究の成果により、難解な、あるいは誤解の少ない仏教用語に関する、**信頼度の高い現代語訳と、それを裏づける主要な用例集**が公にされます。

この成果は、関連する哲学思想や語学・文学の領域にも大きな影響を与えた仏教用語および仏教思想に関するよりの確な理解を可能にします。

このプロジェクトの成果は Web 上で公開する予定で、**専門家のみならず、仏教思想に関心をいただく多くの人々に貴重な学習上のツールを提供**することになります。

また、対象となる資料はインド語、チベット語、漢語等の複数の言語に跨るため、内外の関連分野の中でも、とりわけ**日本のインド学仏教学界に期待される**ところが大きい研究成果といえます。**国際的な研究協力**の拠点として、建設的な意見・情報交換をすすめながら、期待に応えたいと考えています。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

齊藤明・他（編著）『『俱舍論』を中心とした五位七十五法の定義的用例集—仏教用語の用例集（パウダコーシャ）および現代基準訳語集—』（Bibliotheca Indologica et Buddhologica 14）、東京：山喜房佛書林、2011。

高橋晃一「TEI P5 を利用した仏教用語集作成に関する諸問題」『人文工学の可能性—異分野融合による「実質化」の方法—』じんもんこん 2010 実行委員会（東京工業大学）、pp.125-130、2010。

【研究期間と研究経費】

平成 23 年度—27 年度
81,700 千円

【ホームページ等】

http://www.l.u-tokyo.ac.jp/intetsu/start_index.html